福祉ボランティア活動実践校事業及び
地域ぐるみボランティア活動推進事業

令和2年度

活動集

ふれあいネットワーク

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会

甲府市ボランティアセンター

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大で、昨年は、社会経済活動が停滞し、小中学校の休校や、行事の相次ぐ中止や地域活動の制限、外出自粛など日常生活に大きな影響を受けました。

こうした困難な状況にある中、地域や学校においては、令和２年度も「地域ぐるみボランティア活動推進事業」及び「福祉ボランティア活動実践校事業」の実施に取り組んでいただいたことに、心より感謝と敬意を表するものであります。

事業計画策定の会議等の開催が容易ではなく、事業の実施に至るまでには、相当の時間を要したとも伺っておりますが、両事業とも感染症対策を講じながら、創意工夫を凝らして取り組まれ、コロナ禍にあっても、これまでと変わらぬ成果を挙げていただいたことに、重ねてお礼申し上げます。

現在、福祉ニーズの多様化・複雑化、高齢化の中での人口減少の進行、地域を始めとする共同体機能の脆弱化などにより、地域住民が抱える生活課題・福祉課題は、既存の社会福祉制度では、容易に解決できない状況となっています。

これら課題の克服に向け、地域住民をはじめ地区社会福祉協議会等の各種団体や行政・学校等が連携・協働し、地域福祉を推進する「地域包括支援体制の整備」等への取組が尚一層求められております。

このようなことから、新型コロナウイルス感染症の終息は依然として見通せない状況にありますが、甲府市社会福祉協議会では、こうした取組を実効性のあるものとするため、今後も、限られた資源を地域の人々が上手に共有し、地域を暮らしやすく変えていくための「地域ぐるみボランティア活動推進事業」及び地域の様々な主体が協力し、次世代を担う子供たちが豊かな人間性や社会性を育み、社会的自立と自己実現を図る「福祉ボランティア活動実践校事業」の推進に積極的に取り組んでまいります。

この度、令和２年度の両事業の取組を活動集として作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

結びに、この事業推進のために、ご尽力をいただきました関係各位、また、地域福祉推進をはじめ、各種活動に日々取り組まれている皆様に心からお礼を申し上げますとともに、当協議会に対しまして、さらなるご指導とご協力を賜りますよう　お願い申し上げます。

令和３年６月

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会　会　長　　山　田　文　夫

目　次

福祉ボランティア活動実践校事業実施要領 …… 1
福祉ボランティア活動実践校一覧 …… 3

【令和２年度福祉ボランティア活動実践校】

①甲府市立貢川小学校 …… 4
②甲府市立中道南小学校 …… 5
③甲府市立中道北小学校 …… 6
④甲府市立北新小学校 …… 7
⑤甲府市立羽黒小学校 …… 8
⑥甲府市立舞鶴小学校 …… 9
⑦甲府市立朝日小学校 …… 10
⑧甲府市立西中学校 …… 11
⑨甲府市立富竹中学校 …… 12
⑩甲府市立笛南中学校 …… 13
⑪甲府市立上条中学校 …… 14
⑫甲府市立北中学校 …… 15

地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領 …… 16

【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

朝日地区社会福祉協議会 …… 17
貢川地区社会福祉協議会 …… 20

甲府市ボランティアセンターの紹介 …… 24
甲府市ボランティアセンター事業の紹介 …… 26
福祉講話講師の紹介 …… 27
高齢者疑似体験セットの紹介 …… 28

甲府市社会福祉協議会　福祉ボランティア活動実践校事業
実　施　要　領

第１条　目的

この要領は、社会福祉法人甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）が、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うとともに、家庭や地域に開かれた福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を図ることを目的とする。

第２条　実施主体

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会とする。

第３条　実施の期間

平成30年度から３年間とする。

第４条　ボランティア活動実践校の指定

実践校の指定は、甲府市立の小・中学校及び高等学校の中から、協議会が指定した学校（以下「実践校」という。）とし、事業期間中一の年度において協議会が学校を指定する。

第５条　協議会の役割

次の各号を行うものとする。

（１）事業の説明会及び実践校相互の連絡調整や情報交換を図るための連絡会議の開催
（２）実践校の指定
（３）助成金の交付
（４）福祉教育に関する相談
（５）福祉講話の講師の紹介
（６）職員及びランティア等の派遣
（７）福祉体験器材の貸出
（８）事業推進に必要な資料及び情報の提供
（９）その他

第６条　実践校の活動

実践校は、それぞれの学校と地域の実情にあわせ、次の各号に定める活動を行う。

（１）広報・啓発活動
・福祉講演会及び展示会等の開催
・福祉・ボランティア活動PR紙等の発行
（２）調査・研究・学習活動
・車いす及び高齢者の体験
・手話、点訳、音声訳及び要約筆記等の学習
・福祉関係及びボランティア関係等の図書、資料整備

（３）体験学習を目的とした実践活動
・社会福祉施設等への訪問による入所者との交流や介護等の体験活動
・体育祭、文化祭等の学校行事への高齢者、障がい児（者）等の招待
（４）社会福祉事業への参加・協力
・近隣地域において各種のボランティア活動
・共同募金への協力
・古切手、牛乳パック及びエコキャップ等の収集
（５）協議会の実施する事業への参加
・ふれあい交流フェスタ並びに養成講座及び研修会などへの参加
（６）その他社会福祉に関する活動

第７条　助成金

実践校への助成金は、第６条に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

２　助成金は、協議会の予算の範囲内で、１校につき４万円を上限に必要な経費を助成する。

第８条　助成金の申請

助成を受ける実践校は、次の書類を協議会会長に提出する。

（１）福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書（第１号様式）

（２）福祉ボランティア活動実践校事業事業計画・予算書（第２号様式）

第９条　実績の報告

実践校は、事業年度終了後20日以内に、次の書類を協議会会長に提出しなければならない。

（１）福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書（第３号様式）

（２）福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容（第４号様式）

（３）福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書（第５号様式）

（４）事業に関わる領収書（写し可）

第10条　その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附　則

この要領は、平成24年４月１日から施行する。

この要領は、平成26年４月１日から施行する。

この要領は、平成27年４月１日から施行する。

この要領は、平成30年４月１日から施行する。

福祉ボランティア活動実践校事業　指定校
【平成30年度～令和２年度実施】

No.	学校名	指定年度		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1	善誘館小学校	○		
2	山城小学校	○		
3	大国小学校	○		
4	千代田小学校	○		
5	新紺屋小学校	○		
6	北東中学校	○		
7	北西中学校	○		
8	城南中学校	○		
9	甲府商業高等学校	○		
10	大里小学校	○		
11	甲運小学校	○		
12	新田小学校	○		
1	池田小学校		○	
2	石田小学校		○	
3	湯田小学校		○	
4	伊勢小学校		○	
5	国母小学校		○	
6	東小学校		○	
7	相川小学校		○	
8	千塚小学校		○	
9	東中学校		○	
10	南中学校		○	
11	里垣小学校		○	
12	玉諸小学校		○	
1	貢川小学校			○
2	中道南小学校			○
3	中道北小学校			○
4	北新小学校			○
5	羽黒小学校			○
6	舞鶴小学校			○
7	朝日小学校			○
8	西中学校			○
9	富竹中学校			○
10	南西中学校			○ 事業未実施
11	笛南中学校			○
12	上条中学校			○
13	北中学校			○
合計		12	12	13

1　甲府市立貢川小学校

1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ回収 古切手回収	7月 10月	白杖体験　4年生 車椅子体験　4年生 福祉講話　4年生

2　取り組み事例

（1）白杖体験

視覚障害について調べ学習を行い、実際に視覚を遮り、白杖を持って歩く体験をしました。白杖や点字ブロック、パートナーを頼りに歩く活動を通して、視覚障がいの困難さについて理解を深めることができました。

（2）福祉講話

盲導犬について事前学習を行い、講師を招き、福祉講話を開かせていただきました。障がいを持つ方々や盲導犬を連れている方々との接し方について、深く考えることができました。

3　一年間の評価と課題

今年度は、感染症流行の影で、例年通りに実施きない部分もあったが、ソーシャルディスタンスや消毒の徹底を児童自身も気をつけて活動できた。それにより、例年以上に、周囲のことを考える学習の場となったといえる。

今後も継続して、福祉教育に力を入れて実践していきたい。

2　甲府市立中道南小学校

1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
11.5	廃品回収		
12.11	障害者支援施設「麦の家」訪問		

2　取り組み事例

（1）廃品回収

毎年、中道南小学校区で行われているPTA主催の「廃品回収」活動を、各地区の自治会長の方々に協力を得て実施している。その際、児童も保護者の車に同乗し、回収や積みおろしを自分たちから進んで行った。

朝早いこともあり、少人数だが地域の一員としての意識を持ち、積極的に活動した。

（2）障害者支援施設「麦の家」訪問

児童会が中心となって毎年行うボランティア活動の一貫として、障害者支援施設「麦の家」を訪問し、施設内外の清掃活動や障害者との交流会を開催したり、小学校で集めた生活必需品などを贈呈したりして交流を深めている。今年は、施設の意向や感染症まん延防止のため、施設の外周りや駐車場などの清掃活動を行い、交流を深めた。

3　一年間の評価と課題

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今まで通りの実施とはいかなかったが、様々な点で配慮し計画する中で、体験活動（障害者施設訪問）を行うことができてよかった。特に６年生は、多くの行事が中止となってこともあったので、訪問活動は良い経験になった。来年度も継続してこれらの活動を計画していく予定であるが、内容や日時などについて検討をおこなっていく必要がある。

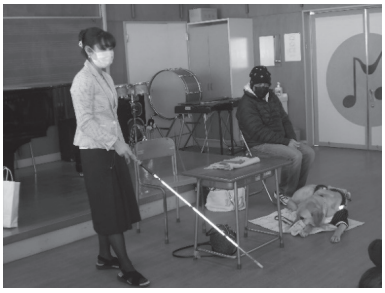
3　甲府市立中道北小学校

1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
R3.2.3	福祉講話		

2　取り組み事例

4年生の「総合的な学習の時間」の「わたしたちにできるボランティア」に合わせて、盲導犬ユーザーの白濱顕子さんに福祉講話をしていただきました。



クイズを交えながら子どもたちは視覚は視覚障害を抱える方にどのような声かけや助けができるかと考えることができました。

3　一年間の評価と課題

今年度は去年に引き続き、感染症予防の問題で講話をしていただけるか難しいなかで、なんとか行えた貴重な機会でした。大人の方が遠慮して聞けないようなお話が実際に聞くことができてよかったと思います。来年度も事業に関係なく進んで取り組めるように計画をしていきたいと思います。

4　甲府市立北新小学校

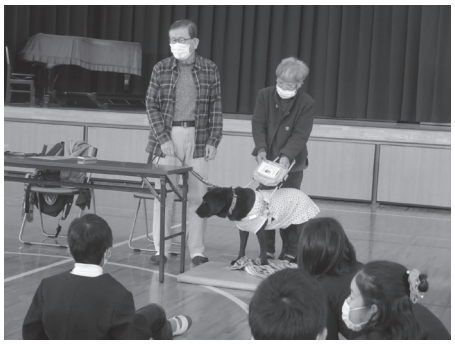
1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
11.11	福祉講話		
R3.3.16	ふれあいの花		

2　取り組み事例

（1）福祉講話

４年生の総合的な学習の時間で視覚障害者の方をお招きして福祉講話を行いました。盲導犬との出会いや日常生活での困難なことなどをわかりやすくお話してくださいました。また、児童からの質問に丁寧にお応えいただきました。児童は、目が見えることのありがたさを感じ、障害者への接し方などを学ぶ機会となりました。



（2）ふれあいの花

１年間を通して花いっぱいの学校づくりをめざしています。毎年、北新地区のシニアクラブの方々と一緒に学校の花壇に花の苗を植え、水やりもシニアの方々と当番で行っています。花の名前を教えていただいたり、上手な植え方や水やりの方法を教えていただき交流を深めました。

3　一年間の評価と課題

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、思うように活動ができませんでした。新しい生活様式を取り入れながら、後半、活動を少しずつ再開いたしました。少ない活動ではありましたが、児童は、人を思い遣る気持ちや感謝の気持ちを持って生活することなど多くのことを学びました。

5　甲府市立羽黒小学校

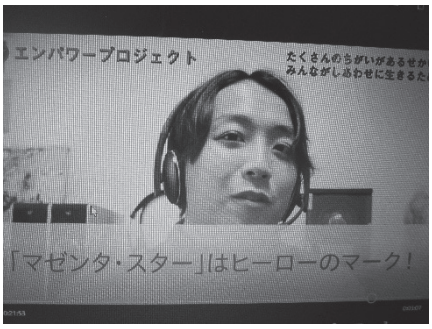
1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
通年	あいさつ運動 クリーン活動 ペットボトルキャップ集め 「ありがとうの鳥」の取組	11月 12月 1月 3月	落ち葉清掃 赤い羽根協同募金 書き損じはがき・古切手回収 「マゼンタ・スター」について知ろう　1年生

2　取り組み事例

（1）あいさつ運動

コロナの影響で、今年度は、今までと同じ形であいさつ運動ができませんでした。そこで，児童会が「おはようございます。」「さようなら。」のハンドサインを決めてあいさつ運動に取り組むことにしました。子ども達は朝や帰りにハンドサインをしながら小さな声で友達にあいさつをしていました。ハンドサインでも今までと同じように、心と心がつながるあいさつができたと、子ども達は１年間の活動を振り返っていました。



（2）「マゼンタ・スター」を知ろう

「Empower Project」代表の飯山智史さんに「マゼンタ・スターについて知ろう」の授業をしていただきました。（動画配信）違いがあってもみんなが幸せに生きるためにはどうすればいいのかを「障害」をキーワードにして考えました。また、困っている人がいたらみんなで協力して助けていく、そんな優しい世界を作りたいという飯山さんの願いから「Empower Project」の活動が始まったこと、困ったときには声をかけてねというヒーローのマーク、優しさのマークが「マゼンタ・スター」ということも教えていただきました。～児童の振り返りカードから～・私もヒーローになって困っている人を助けたいです。・転んで泣いている人がいたら、助けたいです。・みんなで協力すると優しい世界になることが分かりました。・障害のことをもっと詳しく知りたいです。・違いがあってもいいことが分かりました。

3　一年間の評価と課題

今年度は、コロナ感染対策のため例年通りの活動が行えませんでしたが、あいさつハンドサインを決めたり、ありがとうの気持ちを鳥の羽カードに書いて伝えたりするなど、様々な工夫をして取り組みました。どんな状況でも、知恵を出し合い、みんなで協力していけばできないことはないということを、子ども達は学ぶことができたと思います。来年度も、いろいろな制限があると思いますが、子ども達と教師で知恵と力を出し合って継続して福祉ボランティアの活動に取り組んでいきたいと思います。

6　甲府市立舞鶴小学校

1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
通年	古切手収集	11月	赤い羽共同募金運動
	ボランティア委員会によるゴミゼロ運動		点字体験・視覚障害者疑似体験（3年）
	飼育栽培委員会によるプランターの花の植えかえ	1月	書き損じはがきの収集
		R3.2月	車いす体験・身障者疑似体験（4年）
	（花いっぱい運動）	3月	愛校作業（6年）
8月	ＰＴＡ奉仕作業		

2　取り組み事例

（1）視覚障害者疑似体験

3年生がアイマスク体験をしました。目隠しをして廊下や階段を歩く疑似体験を通して、介助者の肩に手を置いて誘導されても見えないことへの不安や怖さがあることを感じ、さらに点字ブロックの上を歩くことで安心して歩けること、点字ブロックの大切さを学ぶことができました。また、介助する側も介助方法を理解しても、つい相手の腕をつかんだり背中に手を回したりしてしまい、介助の難しさを感じていました。両方の体験を通して、障害のある人に対して進んで手を貸してあげたいという気持ちを高めることができました。

（2）車いす体験・身障者疑似体験

4年生が身障者疑似体験用具をつけての福祉体験学習をし、身障者が普段どれほど動きにくい状態で生活しているかを理解しました。車椅子での介助では、段差や斜面を通る体験もして、車椅子の操作の方法とどんなことに気をつけたらよいかなども学ぶことができました。自分たちが思っている以上に障害をもつ人たちの苦労や大変さを知ったうえで福祉についての理解を深め、これからの自分たちにできることを考えるよい機会となりました。

3　一年間の評価と課題

今年度は、コロナ禍により例年通りの活動ができませんでしたが、委員会を中心にボランティア活動を進めることができました。また、福祉教育の一つとして3・4年生が体験学習を行い、障害者への理解を深め、自分たちの生き方を考える有意義な学習の機会となりました。今後も児童の豊かな心の育成を目指し継続して取り組んでいきたいと思います。

7 甲府市立朝日小学校

1 主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
11.30	盲導犬との交流（6 年）	R3.3.22	障がい者疑似体験 （保健委員会）
12.3	展示体験（4 年）		
12.4	盲導犬との交流（2 年）		

2 取り組み事例

車イスと白い杖を体験し、障がい者の方々の大変さを疑似体験した。

3 一年間の評価と課題

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、教育活動の計画が変更に次ぐ変更及び三密回避等で、十分に活動を実施することができませんでした。

今年度活かすことができなかった器具は、来年度に有効活用していきたいと思います。

8　甲府市立西中学校

1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
通年	あいさつ運動	11 月	盲学校生徒との合唱交流
	パンジーの苗植え・水やり		パンジーを地域へ配布
	清掃	12 月	赤い羽根共同募金
9 月	盲学校生徒との作品交流	R3.1 月	古切手・書き損じ葉書回収

2　取り組み事例

今年度本校ではコロナ禍だからこそ、花のある地域を目指し、いつも私たちを見守ってくださる地域の方々へパンジーの苗の配布を計画しました。夏休み明けの８月に土作りから始め、１５００程の苗の育成に挑戦しました。うまく育たない苗もありましたが、多くの苗が花を咲かせました。その後、大事に育てた花を地域の方に配り地域の方との交流も図りました。

子どもたちが生まれ育った地域の環境美化を推進し、この活動を通して日頃から子どもたちを見守ってくれている地域の方々に感謝の気持ちを伝えることができたと思います。

「パンジーを2鉢いただきました。私も花が好きで花を家で育てています。西中のボランティア委員会の生徒にお礼が言いたくて電話をしました。ありがとうございました。」と地域の方からもお礼の言葉をいただき、やりがいや充実感も感じることができました。

3　一年間の評価と課題

花育の活動を通して、花を責任持ち育てることの大切さや花が育つことへの喜びや愛着を感じるなど、花と共に子どもたちの心が育つことを感じることができました。また、地域へ貢献する活動を通して、地域の一員としての自覚を高めさせることにもつながったと思います。これからも地域と連携を図り、地域の発展に貢献できる活動を行っていきたいと思います。

9　甲府市立富竹中学校

1　主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
7.6 ～ 10	日本補助犬協会支援活動（募金）	12.16	地域清掃活動
11.2 ～ 8	アフリカ飢餓救援米活動	通年	古切手・書き損じはがき回収
11.2 ～ 8	赤い羽根共同募金、ユニセフ基金		ペットボトルキャップ回収
12.14 ～ 18	福祉施設交流（メッセージカード）		福祉通信の発行

2　取り組み事例

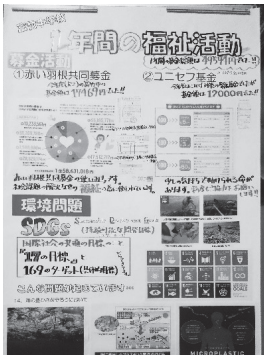
（福祉施設交流）

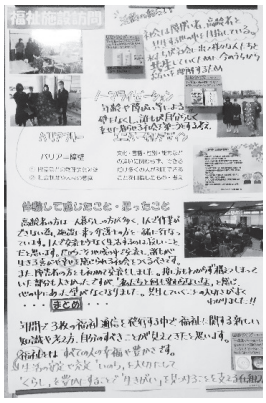
有志生徒がメッセージカードに手紙を書き、地域の高齢者施設と障がい者施設の各２施設にクリスマスのメッセージカードを送る交流を行いました。本来は多数の生徒で行く予定でしたが、コロナ禍ということで生徒会本部の福祉担当２名でカードを渡し、福祉活動に関わるインタビューをさせていただきました。その後、還流報告も行い、有意義な活動となりました。

（地域清掃活動）

学校の周りの清掃活動を行い、気持ちの良い環境をつくっていくことで、普段お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを表すことが出来たと思います。地域に誇れる富竹中を目指して奉仕活動に取り組み、地域が誇れる富竹中へと発展させていけるように、今後もこの取り組みを継続していけたらと思います。

（福祉通信の発行と福祉活動の振り返り）





通年活動にしていた福祉通信の内容や、１２月に行った福祉施設訪問の還流報告を模造紙にまとめて、ホワイトボードに掲示しました。交流先から送っていただいたクリスマス会の様子や、クイズなどを取り入れ、福祉に興味を持ってもらえるような掲示物に仕上がったと思います。来年度も福祉に力を入れて取り組んでいきたいと思います。

3　一年間の評価と課題

この１年間、福祉ボランティア活動実践校として今まで以上に福祉活動に力を入れて取り組んできました。ボランティアをする意味や募金の行き先などを福祉通信を使って発信し、ボランティアに取り組む意味や大切さを全校で共有しながら、多くの生徒が積極的に福祉活動に参加できました。しかし、それはわかっていても、思いを行動に移すことが出来ない生徒がいることも確かです。強制的にならず、全校体制で取り組める方法を考えながら活動することが今後の課題だと考えます。

10 甲府市立笛南中学校

1 主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
8月	親子清掃活動	11月	「アフリカ飢餓救援米活動
9～12月	地域清掃活動	R3.1月	古切手・書き損じハガキ・使用済みテレカ収集活動
9～10月	「手足の不自由な子どもを育てる運動」		
11月	赤い羽根共同募金	1月	福祉体験（1年）
		1月	福祉講話集会（1年）

2 取り組み事例

（1）地域清掃活動

学校周辺を広範囲にわたりゴミ収集を行いました。地域にはいくつものゴミ袋が一杯になるほどのゴミがあるということに気づきました。地域での美化活動の意義を感じ、環境美化への意識を高めることができました。

親子清掃活動では、生徒たちだけではできない作業を手伝っていただくことで、感謝の気持ちをもつことができました。そのことにより、自分たちに出来ることは何であるのかを考え、それを行おうという気持ちをもつことができました。

（2）福祉講話集会

1月27日に1年生を対象に、小池早由里先生をお招きして福祉講話を行いました。障害を乗り越え、さまざまなことに挑戦しようという姿勢が生徒たちの勇気となりました。また、今後、障害のあるかたにどう接していくかを考える機会となりました。

3 一年間の評価と課題

今年度も生徒会やボランティア委員会の取り組みにより、年間を通してボランティア活動を計画的に行いました。ボランティア委員会で作成したお便りや掲示物、放送内容等を工夫することにより、多くの生徒が活動に協力することができました。

親子清掃活動や地域清掃活動においては、各家庭の協力も得ながら毎年の恒例行事として定着しています。生徒たちが意欲的に行い、地域に貢献したいという気持ちが育っています。

福祉活動では、生徒たちが高齢者・車いす・白杖の体験をしたり、福祉講話で車いすの方の体験を聞いたりすることで、自分たちにできることを考えることができました。

活動時間の確保が課題ではありますが、来年度以降も生徒が主体的に取り組めるような活動を工夫して行っていきたいと思います。

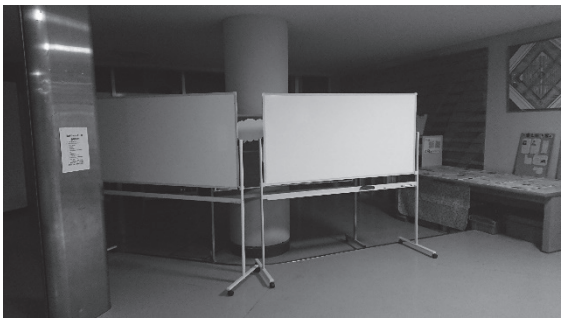
11 甲府市立上条中学校

1 主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
通年	ペットボトルキャップ・牛乳パック・古切手収集	11月	アフリカ飢餓救援米
		12月	赤い羽根共同募金
4月	熊本地震義援金		海外助け合い募金
7月	九州豪雨義援金	R3. 1月	書き損じ葉書・古切手回収
8月	少年赤十字リーダー養成トレーニングセンター		

2 取り組み事例

例年はＪＲＣ委員会を中心に、１年を通じてペットボトルキャップ・牛乳パック・古切手の収集を行っている。また、災害時には生徒会本部とＪＲＣ委員会が連携して募金活動を行い、多くの金額を集めている。８月には少年赤十字リーダー養成トレーニングセンターに代表生徒が参加しているが、今年度は感染症対策のためそのほとんどが実施することができなかった。



そこで、本年度はホワイトボードを購入した。これを生徒玄関前に設置し、ここに委員会の活動を書き込んだり、ポスター等の資料を掲示したりすることによってボランティア関連活動の普及・啓発を図った。また、全校での会話を増やすためにホワイトボードを活用し、生徒同士の心の密を図った。

3 一年間の評価と課題

１年を通じ、感染症対策のため行事やボランティア活動を行うことが難しかった。しかし、生徒会本部と委員会・他委員会などとも連携を図りながら積極的にできることを模索し、新しい方法や策を見出すことができた。できないことは多かったが発見の多い年となった。

12 甲府市立北中学校

1 主要行事

年月日	行　事　名	年月日	行　事　名
7.1	アルミ缶・ペットボトルキャップ回収	12.7	同左
9.3	〃	R3.1.21	〃
10.22	〃		
11.19	〃		

2 取り組み事例

委員会活動として、本校のボランティア委員会が呼びかけ、啓発活動を行い、毎月１回、朝の登校時にアルミ缶・ペットボトルキャップを回収している。各家庭で意識して使用したアルミ缶や、キャップをストックしておき、ボランティア委員会の呼びかけに応じて、学校に持ち寄ります。年に２回程度業者に引き渡し、業者から収益はNPO法人に寄付されている。

3 一年間の評価と課題

今年度は、委員会の活動の他に、学年での取り組みとして福祉の学習を計画したが、コロナ感染症の影響を受け、当初の計画は実現していない。しかし今年度購入した点字器を活用し、来年度以降学習活動を行いたい。また、委員会活動おいては、伝統として位置づけ、今後も継続し取り組んでいきたい。

甲府市社会福祉協議会
地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領

第１　目　　的

地域で共に安心して暮らし続けられる地域社会の再構築や子供たちを始めとする地域における「福祉のこころ」の醸成をするため、地区社会福祉協議会及び関係団体並びに学校が地域ぐるみで連携して進める福祉教育やまちづくりを推進することを目的とする。

第２　実施主体

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）とする。

第３　推進主体

協議会が指定した地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）とする。

第４　実施の期間

４月１日から翌年の３月31日までの一年度

第５　地区社協の指定

一年度につき２地区社協

第６　運営及び活動内容

（１）福祉教育推進委員会の設置及び運営
　　地区社協は、活動の母体となる福祉教育推進委員会を設置し運営する。
（２）福祉教育推進委員会は、地域の関係者や学校と連携して、地域の実情にあわせた福祉教育活動を企画・実施する。また、地区社協の実施する事業および学校行事への参加・協力を行う。

第７　助成金

地区社協への助成金は、第６に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

２　助成金は、地区社協予算に計上し収支項目を明確にして会計処理を行う。

３　助成金は、協議会の予算の範囲内で、１地区につき10万円を上限に必要な経費を助成する。

第８　助成金の申請

助成をうける地区社協は、次の各号に定める様式を協議会に提出し、承認を受けなければならない。

（１）地域ぐるみボランティア活動推進事業助成金交付申請書（第１号様式）
（２）地域ぐるみボランティア活動推進事業事業計画書（第２号様式）
（３）地域ぐるみボランティア活動推進事業収支予算書（第３号様式）

第９　実績の報告

地区社協会長は、事業年度終了後20日以内に、次の各号に定める様式を協議会に提出しなければならない。

（１）地域ぐるみボランティア活動推進事業実績報告書（第４号様式）
（２）地域ぐるみボランティア活動推進事業事業報告書（第５号様式）
（３）地域ぐるみボランティア活動推進事業収支決算書（第６号様式）
（４）事業に関わる領収書（写し可）

第10　その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附　則

この要領は、平成24年４月10日から施行する。
この要領は、平成27年４月１日から施行する。
この要領は、平成30年４月１日から施行する。

令和２年度　地域ぐるみボランティア活動推進事業
実　績　報　告　書

朝日地区社会福祉協議会

1　福祉教育推進委員会

委員構成	役　　職	氏　　名
委員長 事務局長 事務局次長 事務局会計 20名	朝日地区社会福祉協議会会長	伴　　賢二
	朝日地区社会福祉協議会副会長	土橋　憲子
	朝日地区社会福祉協議会副会長	武井　静子
	朝日地区社会福祉協議会事務局	塩入　良和
	朝日地区社会福祉協議会会計	雨宮　愛子
	朝日地区自治会連合会会長	服田　尚隆
	朝日地区自治会連合会女性部長	渡辺れい子
	朝日地区民生委員児童委員協議会会長代行	小野　克哉
	朝日地区青少年育成推進協議会会長	金山　輝男
	朝日地区食生活改善推進員会会長	板山　和子
	甲府市立朝日小学校校長	高橋　雄二
	甲府市立朝日小学校教頭	深澤　光彦
	甲府市立朝日小学校教頭教務主任	堀江　雅人
	甲府市立朝日小学校PTA会長	太田明日実
	甲府市社会福祉協議会ボランティア振興課	京ヶ島　誠
	甲府市社会福祉協議会地域福祉推進課	窪田　敏一

開催期日	内　　容
R 2.7.30	第１回福祉教育推進委員会 　朝日小学校の年間行事との確認と連携事業の計画を立案した。また、委員会の各参加団体が支援する授業の確認を行った。 　本地区は、平成27年度にも本事業のモデル指定を受け、継続的に同様の事業を実施してきたため、委員会は円滑に実施できた。
R 3.4.30	第２回福祉教育推進委員会 　成果の確認と反省等を行った。 　また、委員会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響で、年２回のみとなった。

（委員会の開催）

２．地域と学校が連携して行う活動

開催日	会　場	内　　容
R２.9.9 9.15	朝日小家庭科室	ミシンの使い方について（裁縫補助）エプロン作成…６年生
10.6 10.14	朝日小家庭科室	ミシンの使い方について（裁縫補助）ナップサック作成…５年生
10.30	朝日小校庭	さつまいも収穫…２年生

３　その他の実施事業

開催日	会　　場	内　　容
R２.5.21	朝日小校庭	さつまいも苗植え
7.22	朝日小北側歩道	花の植栽
8.29	朝日小校庭	さつまいものつる返し
10.22	朝日小教室	戦争体験講話（平和学習）…４年生
11.20	朝日小北側歩道	花の植栽
11.30	朝日小体育館	盲導犬との交流、福祉学習…６年生
12.3	朝日小教室	点字学習…４年生
12.4	朝日小体育館	盲導犬との交流、福祉学習…２年生
12.18	朝日悠遊館	ほうとう作り…５年生

※命の授業（５年生）、昔の遊び（３年生）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。
※２年生の県立図書館他朝日地区探検、朝日商店街買い物体験は、学校関係者のみで実施。
※盲導犬との交流を年２回（11月30日、12月４日）実施、朝日地区探検（12月８日）を年１回実施。買い物体験（３月４日）は、地区民生委員児童委員協議会が参加。
※ほうとう作り（12月18日）は、地区食生活改善推進員会が参加。

（盲導犬との交流）

（花の植栽）

4　１年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、様々な活動や事業等に影響を受けた１年であった。例年では、約20の事業が行われ、本年度当初も同様の計画がされていたが、コロナの影響で、多くの事業の中止を余儀なくされた。

特に、新一年生を迎えての「花の植栽」や、約40名で行う予定だった３年生の「昔の遊び」が中止となったのは、極めて残念であった。

５、６年生の裁縫補助は、多くの方の協力を得て、非常にスムースに授業が進められ、大変良かったと思う。参加した方々からは、「楽しかった」、「教え甲斐があった」、「子供が可愛かった」などの感想が寄せられ、意義ある取り組みであった。

前回本事業のモデル指定を受けた平成27年度以降、毎年、ほぼ同じ事業を継続的に実施してきたため、協力いただく方も手際よく手伝いができた。

民生委員児童委員協議会が中心に朝夕の見守りを行っているため、顔なじみの児童も多く、児童の皆さんもリラックスして授業を受けている様子が見られ、毎年継続的に積み重ねていくことは大切だと思った。また、各種事業は、児童と地域の関係者との良い交流の場となっている。

本事業は、モデル指定後に継続していくことが重要であるため、地区の関係団体の役員等が交代された場合は、適切な引継ぎが必要となる。

最後に、新型コロナウイルス感染症の終息を心より願うばかりである。

令和２年度　地域ぐるみボランティア活動推進事業
実　績　報　告　書

貢川地区社会福祉協議会

1　福祉教育推進委員会

委員構成	役　　職	氏　　名
30名	貢川地区自治会連合会会長	望月　　尚
	貢川地区女性部連合会愛育会会長	飯島たみ子
	貢川地区連合親寿会会長	古屋　　至
	貢川地区体育協会会長	長沼　達彦
	貢川地区文化協会会長	高田　宣雄
	貢川地区社会福祉協議会会長	松田　丞司
	貢川地区福祉推進員協議会会長	小笠原百合江
	貢川地区民生委員児童委員協議会会長	戸田　　知
	貢川地区青少年育成推進協議会会長	嶋田　和雄
	貢川地区子供クラブ指導者連絡協議会会長	小田切　勤
	甲府市交通安全協会貢川支部支部長	松井　俊之
	甲府市消防団貢川分団分団長	佐野　和夫
	甲府保護区保護司会西会副会長	内藤　伸一
	貢川地区食生活改善推進員会会長	堀内　昭子
	貢川地区明るい選挙推進協議会会長	小林　達子
	貢川小学校校長	伊東　勝彦
	貢川小学校ＰＴＡ会長	小宮山幸恵
	貢川地区自治会連合会監事	内藤　慎一
	徳行一丁目東部自治会会長	飯島　　覚
	富竹東部自治会会長	大木　和朗
	富竹西部自治会会長	功刀　敏男
	貢川一丁目自治会会長	込山　武人
	貢川本町東部自治会会長	森田　　宏
	貢川二丁目自治会会長	山田　　昇
	上石田北部自治会会長	小池　雄二
	徳行二丁目自治会会長	一瀬　　宏
	上石田西新居自治会会長	名執　義人
	徳行本町自治会会長	内藤　伸一
	貢川本町西部自治会	赤坂　正示
	家具団地自治会会長	青島美津男
	徳行南部自治会会長	水落　　宏

開催日	内　　容
	今年度の主要な事業として、開催を予定した第三のオリンピックス「スペシャルオリンピックス」の講演会及び「衝突被害軽減ブレーキ」体験会の検討を計画していたが、新コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 他の事業の委員会の開催については、感染対策を行いながら、規模を縮小して随時実施した。

2　地域と学校が連携して行う活動

開催日	会　　場	内　　容
R2.7.4	貢川小体育館 東側	植育体験(野菜を育てて、朝食で味わおう) 児童がレタスの種を播き、その鉢を自宅に持ち帰り、毎日水をやり、その成長を観察する。大きく育ったレタスをサラダ等で食する。種まきから収穫、食べるまでを通して育てることの大切さ・苦労を体験した。 食生活改善推進委員会と連携して実施

3　その他の実施事業

開催日	会　　場	内　　容
R2.12.6	貢川小 校舎玄関前	歳末友愛訪問を実施し、シクラメンを贈呈

開催日	会　　場	内　　容
R３.3.27	貢川右岸	満開の桜のもと、多世代参加による貢川沿いの「桜の花見・健康　ウォーキング」を実施 （写真は周知用リーフレットより）

※青少年育成推進協議会及び文化部と連携して実施予定の「東京フィルハーモニー交響楽団」の演奏を楽しもう及び「古典」を楽しもうの両事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。代替して、上記表の２事業を実施した。

４　１年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

レタスの栽培については、播種することは出来たが、毎日の水やりがおろそかになり、発芽しなかったり、その後の青虫等による食害で食べることができたのは少数であった。児童たちは、種まきから食べるまでを通して、野菜を育てることの大切さ・苦労を体験した。

最近のＴＶに、煮魚等の調理ができない女性やアナウンサーが登場して驚いたが、煮魚どころの騒ぎではない。毎日水をやり野菜を育てることもできなくなっていることにも驚いている。**袋の味**で満足している子供たちに、もっと身近な食育を経験してもらいたい、と望むのは無理なことだろうか。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した「東京フィルハーモニー交響楽団」の演奏を楽しもう及び「古典」を楽しもうの事業については、できれば来期に実施したいと考えている。

甲府市ボランティアセンターの紹介

甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で生かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成６年４月１日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。

活動の基盤づくりの援助

・ボランティア・ＮＰＯ団体への支援
・高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
・ボランティア活動機材の貸し出し
　(車いす・白い杖・アイマスク・紙芝居・積木セットなど)
・小・中・高校の福祉教育学習への協力
・ボランティアグループの会議や活動の場としてボランティアビューローの開放
・ボランティア活動中の万一の事故に備えて保険への加入窓口

ボランティア活動の情報収集や情報の提供

・「ボランティアニュース」や「ボランティアだより」の発行
・ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
・「ホームページ」やＳＮＳ（フェイスブック）による情報発信
・「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

ホームページアドレス：http://www.kofu-syakyo.or.jp/
甲府市社会福祉協議会のホームページよりアクセス願います。

育成・研修ボランティア講座の開催

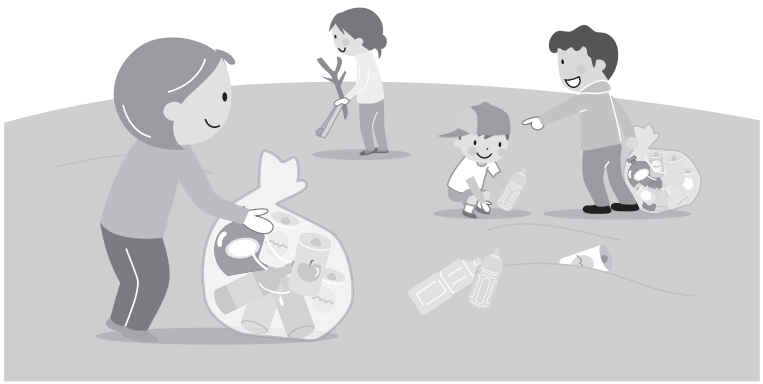
・傾聴や手話、災害ボランティアなど各種ボランティア講座の開設
（講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします）

フードアプリケーション プラスなどの実施

各家庭や事業所等で余った食料品や生活用品などを寄付していただき、必要な家庭及び団体等で活用していただくためのコーディネート

古切手・牛乳パック・不要入れ歯等の収集の窓口

取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



甲府市ボランティアセンター事業の紹介

養成講座や学習会などの開催

災害ボランティア学習会

手話学習会

災害 VC 運営訓練

フードアプリケーションプラス

ボランティア情報の発信

お問い合わせは、
甲府市ボランティアセンター
までお願いします。

TEL 055-223-1061
FAX 055-231-6061

福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

◇肢体不自由者（車いす使用）…… 歩行が困難な方の車いすでの生活実態
◇視覚障がい者（盲導犬同伴）…… 目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
◇聴覚障がい者（手話）…… 耳が不自由な方の生活実態と、手話を用いてのコミュニケーション方法
◇環境教育支援団体…… 環境について考える
◇災害・防災ボランティア団体…… 被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の備えなどを学ぶ
◇ボランティア活動実践者…… 障がいのある女の子と妹、その母親とのユニット等（障がいを乗り越え、音楽を通してのボランティア活動）

☆講師の紹介については、
甲府市ボランティアセンターへご連絡ください。

TEL　０５５－２２３－１０６１
FAX　０５５－２３１－６０６１

高齢者の体と心を体験してみよう！！

（高齢者疑似体験セット）

目　的

1　高齢者の心を思いやる

グッズを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のためかすみ、見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者の心理状態を忖度し、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

2　介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。

このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。

このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

3　バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。

普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。

【高齢者疑似体験セット装着】

【高齢者疑似体験セット】

福祉ボランティア活動実践校事業及び
地域ぐるみボランティア活動推進事業活動集

（市社協指定実践校・指定地区社協）

― 令和2年度 ―

令和3年6月 発行

社会福祉法人　甲府市社会福祉協議会　ボランティア振興課
（甲府市ボランティアセンター）

〒400-0858　山梨県甲府市相生2-17-1
TEL 055-223-1061　FAX 055-231-6061
E-mail:k-vc@kofu-syakyo.or.jp

※この活動集は、赤い羽根共同募金分配金により作成しました。